



田中 裕昭 議員

国道56号・378号の整備見直しについて

問

本市の最も重要な幹線道路である両国道は、合併した地域住民の生活の向上、活性化、交流を図る上で早く整備を願うものである。

国道56号の市場から伊予警察署まで、国道378号の三秋から高野川、伊予郵便局から伊予農業高等学校までの整備見直しについて問う。

答

中村市長

国道56号の市場から伊予警察署までの延長二・五キロメートルのうち〇・四キロメートルを供用している。

また、JRとの交差部の工

一般質問

事予定は、平成十九年度にJRとの施工協議、平成二十年度上期に工事着手予定で、完成までに五、六年を要すると思われる。なお、全区間の完成は、平成二十年代半ばを予定しているとの情報を得ている。

国道378号三秋から高野川間は、現在二車線で改良されているが、急カーブが連続する区間があり、トラックが荷崩れや転倒事故を起こす等車両の通行に支障を来している。このため、平成七年度から県が国の補助を受けて事業着手し、平成二十年前半の完成を目指して事業進捗を図っている。

また、伊予郵便局から伊予農業高等学校間は、歩道が設置されていない。通勤、通学の交通安全を確保するため、延長百八十メートル、幅二・五メートルの両歩道を整備し、幅員十二メートルに改良するもので、平成二十年代半ばを完成目標にしている。

答

産業建設部長

国道56号の四車線化は、

伊予インター関連事業で整備を進めており、延長六・四キロメートル、幅員二十四メートルから三十メートルの計画である。平成十八年十二月末で延長四・三キロメートルを供用し、整備率六十七%である。

国道378号の三秋から高野川間は、現在延長三・七キロメートル、二車線片側自歩道、幅員十二メートルで事業を行っている。平成十八年十二月末時点で延長一・八キロメートルを供用し、整備率四十九%である。

また、伊予郵便局から伊予農業高等学校間は、平成十八・十九年度で測量及び調査業務を実施し、平成十九年度に地元説明会を開催する予定である。

その後、地元合意が得られれば、平成二十年より事業実施予定である。



三秋～高野川間の急カーブ



歩道未設置の道路

市街化区域等の超過雨水対策について

問

最近の異常気象は、地球温暖化やエルニーニョ現象が要因の一つでもある。

現在、市街化区域は開発が進み、都市化の進展により田畑や池等の保水、調整機能が低下しているのが現状である。

安全安心なまちづくりをするためにも、流域全体を考えた雨水対策を問う。

答

中村市長

昭和三十八年度に都市下水道事業に着手し、昭和四十八年度には公共下水道事業の認可を受け、事業の推進を図ってきた。現在、幹線水路は一部区域を残し完成したが、近年の降雨状況の変化を考えたとき、約三十年前の雨水整備計画では対処しきれなくなっ

ている。市街地の浸水対策は、市民生活の安心・安全を確保し、生命・財産を守るための重要な施策と考えており、地域住民の御協力、御理解を得て推進したい。

答

水道部長

近年の都市化の進展、上流部の開発等による土地の不浸透面積の拡大によって、近年の降雨状況の変化から、約三十年前の雨水整備計画では対処しきれなくなっている。このため、平成十九年度には、最下流の施設である安広ポンプ場の建築更新工事を実施し、また、大谷ポンプ場もポンプ増設等を計画したいと考えている。

抜本的対策には、ポンプの増設、排水路の整備等莫大な経費、時間がかかることから、あわせて能力不足となっている既存の排水路の改良が必要であると考えている。

道路河川課とも連携をとりながら地元区長さんとも協議し、現地を調査し緊急性の認められる箇所については、改修を実施したい。

その他の質問事項

・公会計改革、外部監査について